

「雪降り和牛尾花沢」をいただき、あまりのおいしさに顔がほころびました。

竹井 選手村のダイニングには山形ののぼりがあつたり、ビレッジプラザの建物には山形の木材が使われていたり、色んな場所で山形の応援を感じることができました。また、大会前に大学時代の友人が送ってくれた大玉の尾花沢スイカは、とってもおいしく、パワーをもらいました！



齋藤元希選手(大石町出身)  
平成10年生まれ。5歳の頃に水泳を始め、高校で一度競技を離れるが、大学1年時にパラ競泳に転向して復帰。2018年アジアパラ競技大会で銅メダル3個を獲得。2021年ジャパンパラ水泳大会で100m背泳ぎ優勝。国士館大学大学院在学中。

皆さんから子どもたちにメッセージを頂けますか。

### 未来のアスリートたちへ

岡澤 「オリンピック・パラリンピックに出場することはとても難しく険しい道のりで特別な才能がなければ無理だ」と思う方もいるかもしれませんが、確かに簡単な道のりではありません。しかし、皆さんそれぞれに必ず可能性があります。そして、その可能性を広げ、「努力」によって険しい道を乗り越えて目標にたどり着くことこそがスポーツの醍醐味であり、意義だと思えます。どうか夢を諦めず、自分を信じて頑張ってください。きつと道は開けると信じています。

中村 『地道な努力 大きな成長』  
私はこの言葉をキーワードにして

### 次の目標に向かって、さらなる躍進を

岡澤 今年は、次のパリ五輪に向けたスタートの年です。色々な新しいことに挑戦する一年にしたいです。自分自身の可能性を信じて、



竹井幸智恵選手(山形市出身)  
昭和63年生まれ。2008年北京パラリンピックでシットティングバレーボール8位。2012年ロンドンパラリンピック7位。その後、一度競技を離れるが、結婚・出産を経験し復帰。東京パラリンピックで3回目のパラリンピック出場を果たす。

パリ五輪での金メダルに向かって突き進みます！  
中村 今年はアジア選手権があるので、メダル獲得を目指して頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします。

三浦 指導者として、子どもたちの育成に力を入れていきたいです。また、女子水球の発展に貢献する活動にも取り組みたいです。

鈴木 水球を有名にするためにも、パリオリンピックではメダルを獲得したいです！

きました。どんなに辛く苦しくてもそれが大きな成長につながります。「あのとき苦しかったけど頑張った！」という気持ちが自信になります。その思いを大切にこれからも努力を重ねてください。

三浦 競技が「好き」という気持ちと、毎日少しずつでも良いのでチャレンジすることが大切です。自分の限界を決めずに、前向きに頑張ってください。



太田渉子選手(尾花沢市出身)  
平成元年生まれ。2006年トリノパラリンピックではバイアスロンで銅メダル獲得、2010年バンクーバーパラリンピックではクロスカントリースキーで銀メダル獲得。2020年全日本テコンドー選手権パラ・キョルギ(組手)の部で優勝。

必ず叶うはずですが、諦めずに頑張ってください。

東海林 目の前の目標に向かって一生懸命に、でも、楽しく頑張ってください。調子が悪いときがあっても諦めないで。それはきつと力を発揮するための糧になります。

齋藤 私は、パラスポーツと出会い、パラリンピックを目標にしてから人生が大きく変わりました。しかし、小さいころからパラリンピックを意識していたわけではなく、そのチャンスは突然現れました。チャンスは、突然来ます。その時を逃がさないように、日頃から万全の準備をしてほしいと思います。

太田 コロナ禍で楽しみにしていた学校行事や、目標としていた大会なども自粛や中止となった人も

です！

知事 コロナ禍で、ともすれば国民の気持ちが沈みがちになる中、スポーツを通じた本県出身選手の活躍は、明日への希望や活力を私たちに与えてくれます。9名の選手の皆さんには今後のさらなるご活躍を心から期待しております。

今大会をきっかけに、県内各地のホストタウンで、世界との交流が続いていくと思えますし、こうした動きが、これからの山形県を発展させる大きな原動力になると確信しております。選手の皆さんに頂いた感動や世界との交流をレガシーとして引き継ぎながら、県民の皆さん一人ひとりが真の豊かさや幸せを実感できる山形の実現に向けて、私も全力で取り組んでまいりますので、県民の皆さん、今年もよろしくお願いたします。

